

平成30年3月1日

卒業式 式辞

秋田県立本荘高等学校 校長 今井 智幸

優美な純白の姿でたたずむ霊峰鳥海に早春の光が映え、ゆったりと流れる子吉川かわもの川面に春のきらめきを感じられるようになった、今日のこの佳き日に、

同窓会長 村岡 兼幸 様、

秋田県議会議員 加藤 鉦一 様 を、

はじめとする御来賓の皆様と、多数の保護者の方々の御臨席を賜り、平成二十九年度秋田県立本荘高等学校卒業証書授与式が挙行できますことに、心からお礼申し上げます。また、これまで卒業生の皆さんを支えてこられました保護者、御家族の方々には、心よりお喜びと敬意を表します。

ただいま卒業証書を授与いたしました全日制課程233名、定時制課程12名の卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

日々の授業・部活動、運動会・玲瓏祭・クラス対抗、…なにげない友との語らい、あるいは、力の限り戦い尽くした試合の瞬間瞬間、練習の成果を一瞬一瞬に込めたコンクール、そして進路実現のために打ち込んだ勉強の日々…、そんな一日一日の積み重ねこそ本高生であったことの証あかしであり、人生においてかけがえのない時間だったのだと、今改めて深い感慨にとらわれていることと思います。

定時制の卒業生の皆さんは、働いているからこそ学ぶことの意義に気づき、そして高校生活は未来への希望を広げるための、人生における貴重な時間だったのだと、今改めて振り返っていることと思います。なべっこ遠足、ミニ縁日、ゆり支援学校との交流では、多くを語らずともよき先輩として行動し、社会的自立への第一歩である、一人一人の進路実現は、後輩たちに大きな勇気と励みを与えました。

人知れず悩み苦しむ時があるのが、多感な高校時代です。青春期の激しい心の揺らぎや悩みは、感受性に響くすべてが新鮮に感じられる青春期の特権とも言え、実は、自己理解や人間観を深め、社会への視野を育むきっかけとなるものです。卒業生の皆さんは、全日制・定時制を問わず、ここ本荘高校で様々な学びや体験を通し、未来へと拓かれた高校生活を過ごすことができたことと確信しています。

言語、文化、宗教や政治などの多様性は、豊かな人類社会の営みに不可欠です。一方、多様性は様々な障壁や紛争をもたらす側面も否定できません。人類の歴史は、多様性による発展と対立の歴史とも言えます。

また、グローバル化の急速な進展は、市場経済を飛躍的に発展させる一方、経済格差の拡大、環境破壊の深刻化、ナショナリズムの台頭などを引き起こしています。情報通信技術、人工知能等の発達による第4次産業革命は、産業・社会構造に変化をもたらすと見られています。

平昌冬季五輪スピードスケート女子500mで、31歳の小平奈緒選手こだいら なおが五輪新記録をマークし、初の金メダルを獲得しました。2009年の大学卒業後は、実績の少なさから所属先が決まらず、競技生活の続行も危ぶまれる苦境に立たされています。201

4年ソチ五輪では、この種目は5位。悔し涙から始まった挑戦です。スピードスケート王国オランダへ留学、昨日までの自分を超越することだけを考え、過酷な筋力トレーニングも笑顔でこなし、バーベルを支える肩に血がにじむまで心身を鍛え抜きました。究極の滑りを追求し続け、文字通り、血のにじむ努力の末に勝ち取った勝利です。

レース終了後の歓声の中、小平選手は指を立てて口にあて、五輪3連覇が期待される、次に控える韓国のライバル ^{イ サンファ}李相花 選手へ気遣いを見せました。最終結果を見て涙を浮かべる ^イ李 選手に、小平選手は「あなたは尊敬する選手」と語りかけます。自身を表す言葉は、「求道者、情熱、真摯」、自身の強みには、「覚悟を持って、進みたい道に行く自信を持つ」と答えています。

スポーツに限らず、人生で困難を抱えていても、乗り越えられること、進展する国際社会にあってあるべき人間の姿を、小平奈緒選手は世界の人々に示しました。国境を越える選手同士の友情や、これまで支えてくれた人々に感謝を忘れない小平選手の言動にも、心を動かされます。

本校の今年度の教育方針を、

- (1) 教育活動全体を通じて、未来を切り拓く人間力や社会に貢献する人材を育成する
- (2) キャリア教育の充実の下、志高く自己実現を果たそうとする態度を育成すると定めました。

人は誰でも、時間的・空間的に有限の、一回性の人生を生きています。また、未来を担うのは、いつの時代にあっても若者です。

「未来」には、生徒一人一人の未来、ここ由利本荘市・にかほ市の未来、ふるさと秋田の未来、そして二十一世紀という未来、という意味が込められています。「人間力」には、予測困難なこれからの時代を、たくましくしなやかに切り拓いていく豊かな人間力を、ここ本荘高校で培って欲しいという、本校の「教育」への意志が述べられています。

ノーベル物理学賞受賞者アルベルト・アインシュタインの言葉に、「Anyone who has never made a mistake has never tried anything new.」というのがあります。一度も失敗をしたことがない人は、何も新しいことに挑戦したことがない人である、という意味です。「自己実現」には、有限の生にあって逆境を乗り越え、自己の可能性と夢に挑戦し続けた小平奈緒選手のように、志を高く掲げ、失敗を恐れず、生涯学び続け、自己を磨き、豊かな人生を送って欲しいという願いが込められています。

「社会に貢献する人材」とは、自分のことだけに精一杯の「^{しょうじん}小人」ではなく、社会の責任を負い、他者を助けるだけの余裕のある「^{たいじん}大人」であれ、ということです。リーダーシップを発揮するのみならず、全体を見渡し、リーダーが見逃し見落としていることをケアするフォロワーシップも備える、複眼の視座をもつ人間であれ、ということです。ぜひ、将来、周囲の人たちから、「あの人に任せておけば大丈夫」、「こんな時にあの人がいいたらなあ」と言ってもらえる人間として活躍して欲しいと、心から願っています。

最後になりましたが、御家族、友人、先生方をはじめ、これまで皆さんを陰で支えてくれた多くの方々がいらっしゃいます。改めて、その方々への感謝の念を思い起こして欲しいと思います。卒業生の皆さんの一人一人のこれからの人生が、健康と幸福に恵まれ、悔いのない生涯を送られることを祈りつつ、式辞といたします。